

相談機能薬局を独自に認定

健サポへ行政の発信力活用

山陽小野田市など3者

山陽小野田市、山陽小野田薬剤師会、山口東
京理科大学は9月、健康相談に広く対応できる
薬局を「スマイルエイジング薬局」として認定
する独自の制度を構築した。市主催の健康イベ
ントなどで繰り返し案内して認知を広げる。行



「スマイルエイジング薬局」として認定

同制度は、薬以外にも健
康づくりや介護などに関す
る不安や困りごとの相談に
幅広く対応できる薬局を市
が認定するもの。認定要件
として、健康イベントの実
施のほか、行政との連携体
制の構築、研修受講などを
設けた。認定を受けた薬局
はタペストリーやのぼりを
掲げ、市民にも分かるよう
にするほか、健康測定機器
や専用の相談スペースなど
も設置し、相談料無料で応
対する。

健康寿命の延伸や地域コ
ミュニティの活性化を目的
とする市の取り組み「スマ
イルエイジング」の一環。
増える高齢者を支える身近
な健康相談の場を作ろうと
始まった。

山陽小野田市福祉部次長
(健康増進課長)の尾山貴
子氏は「移動手段の乏しい
高齢者でも一定割合は必ず
医療機関などを訪れる。そ
こで薬局を地域の身近な健
康相談拠点にできないかと
考えた。公立薬学部のある
街の特性も打ち出せる」と
説明する。2年ほど前から
市の薬剤師会などと検討を
進め、独自の制度を始める
に至った。

山陽小野田薬剤師会の松
垣裕明理事は「健康イベン
トを開いた経験のない薬局
は、企画段階でハードルを
感じていたが、イベントを
重ねるうちに企画力も高ま
る。各薬局がノウハウを身
に付けるまでの下支えをし
たい」と説明する。

政の発信力を生かし、薬局を健康相談の場とし

て活用する土壌を作りたい考え。薬局にも健康
イベント開催に必要なノウハウなどを提供し、
健康サポート薬局の認定取得につなげてほし
い考え。

「スマイルエイジング薬局」
として認定

市はスマイルエイジング
の取り組みとして、健康相
談や健康体操などのイベン
トを定期的に実施してい
る。昨年度は200回ほど
を開催し、延べ2000
人以上が参加。こうした
市主催のイベントや保健
事業、ウェブサイトを通じ
てスマイルエイジング薬局
を活用するよう市民に繰り
返し案内する。まずは薬
局を身近な健康相談の場
として認知してもらいたい
と考えた。

認定を受けた薬局でも健
康イベントを主催する。
市、薬剤師会、大学の3者
が協力して健康イベントの
構成や当日の配布物、実施
手順などを基本マニュアル
として策定し、薬局に提供
する。健康イベントの企画
実施にかかる負担を軽減す
るのが狙いだ。

健康イベントを実施でき るのもプラスに影響する見込

にもプラスに影響する見込
み。

糖尿病患者の死亡年齢

-NDBを用いた記述疫学的研究

ニューステージファーマシスト代表

尾関 佳代子

NDBによる15年度の死亡者
数を算出した。それを人
口動態統計15年確定値の死亡
数と比較したところ、男女共に
全死亡の74%を把握できてい
た。

その結果、NDB全体の死
時の平均年齢は81.2歳(男性
78.7歳、女性83.8歳)で、
そのうち非糖尿病患者は81.9
歳(79.3歳、84.4歳)、2
型糖尿病患者は79.3歳(77.
5歳、82.0歳)、1型糖尿病
は73.3歳(72.2歳、75.0
歳)でした。全体として非糖尿
病患者と2型糖尿病患者の死亡
者の平均年齢の差は2.6歳で
した。

この研究は、糖尿病患者と非
糖尿病患者の死亡年齢の差につ
いて、大規模なデータを用い
て客観的に示しています。記述
疫学を用いたこの死亡年齢差
2.6歳(2型糖尿病)という
数字に対し、私はより興味を
持って受け止めました。

今後、治療法の進歩によつて
その差が縮小していく可能性
を確認するためにも、死亡年齢
に関する追跡研究が重要だと思
います。

(*) = Nishiohara Y, et al. J
Diabetes Investig. 2022.

疫学ってなに？

52

宮原氏が薬剤師初受賞

母子保健家族計画功労者

厚生労働省は14
日、2022年度 家族計画協会からの推薦で
母子保健家族計画 薬剤師の宮原富子氏(ケ
ネ)が受賞した。表彰
式は27日、松江市の島根県
庁で行われる。

対面で済ませる地元住民が
語る。

対面のほか、ビデオ会議
システム「Zoom」など
を活用してオンラインで相
談に対応できる体制を整え
る。忙しい現役世代の相談
も受け入れる。

松垣氏は「現役世代は忙
しく、薬局に来てもらえずに
帰ってしまうが、その人た
ちが高齢になった時に健康
状態が悪化してしまうのを
防がなければならぬ。自
身の都合の良い時間に健康
不安を相談してほしい」と
呼びかける。

今後、遠隔医療の市場は
拡大する見込みで、都市部
の医療機関や企業のサービ
スを利用して、診察から薬
剤の受け取りまでを全て非
呼ぶかける。

化粧品・医薬部外品取扱業者の必読書
**化粧品・医薬部外品
製造販売ガイドブック
2022**
5年振りの改訂
化粧品と医薬部外品の申請手続きにあたっての留意点をまとめた手引書。各種様式や申請時に添付すべき資料などもまとめて掲載。改正薬機法をはじめとする前版(2017年)以降の法規制度に対応し、最新の内容にアップデート。
B5判/546頁/定価9,570円(本体8,700円+税10%)
薬事日報社
書籍の詳細・ご注文はURLまたはQRコードからオンラインショップ ⇒ <https://yakuji-shop.jp/>